

じんけん瓦版 第61号

発行日：2016年1月31日

発行：日本聖公会東京教区 人権委員会

「明治日本の産業革命遺産」の影を訪ねて

人権委員 森田 信也（東京聖三一教会）

昨年、有力とされていた「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」を飛越えて、異例の官邸主導により「明治日本の産業革命遺産」がユネスコ世界遺産に登録された。

石炭・製鉄産業が明治以降の日本経済の発展に寄与した事実とともに、多くの犠牲者の存在も忘れてはならない。この「産業革命遺産」には「三井・三池炭鉱」（福岡県・熊本県）や「高島・端島（軍艦島）炭鉱」（長崎県）など、遅くまで操業していた炭鉱が含まれている。技術・安全意識が進歩した戦後でも、1963年の「三井・三池事故」1981年の「北炭夕張事故」などの炭鉱事故が起きたが、戦前・戦中はまさに危険と隣り合わせ、人命軽視の産業であり、2万人に及ぶ犠牲者が出た。この中には強制連行された多くの朝鮮人や中国人・外国人捕虜の人々が含まれている。

昨年9月に、福岡県大牟田の公園にある「徴用犠牲者慰霊碑」に、白い文字で刻まれた犠牲者への慰めの言葉などを塗りつぶすように黒い塗料がかけられ、「うそ！！」と読める文字も吹き付けられていたことが分かった。慰霊碑は「在日コリア大牟田」が、大戦中に三井三池炭鉱などで過酷な労働を強いられ亡くなった朝鮮半島の人たちを慰霊するために建てた。慰霊碑は、市が用地を無償提供し、企業が建設費を負担して1995年に建立され、毎年4月、碑の前で慰霊祭が営まれている。

世界遺産登録にあたり「強制労働」をめぐって日韓の駆け引きがあったことは記憶に新しいが、その歴史の真実をあらためて学びたいと思い北九州の筑豊炭田地区を訪ねた。

北九州筑豊炭田地区の今

「三井・三池」や「高島・端島炭鉱」などは閉山も遅く坑道や設備なども保存され、世界遺産に登録されている。一方、北九州・筑豊の炭鉱は遠賀川流域を中心に数多く点在していたが、閉山から半世紀以上が過ぎその痕跡はほとんど見る事ができない。炭鉱の原風景であった「ボタ山」には草木が生い茂り、炭鉱住



炭住の復元展示(田川市石炭資料館)

宅（炭住）もなくなり、炭山跡も痕跡を残すのみで、現在ではこの一帯が炭田地区であったことはほとんど分らない。

それでも、部分的に施設が保存されていたり、最大の露天掘り炭鉱であった貝島炭鉱には採掘された穴が巨大な池として残っていた。



貝島炭鉱 露天掘り跡(宮若市) 雨水がたまり最近まで巨大な池となっていたが、埋め立てが進んでいた

朝鮮人強制連行と犠牲者

戦時中の「強制動員」、暴力的な「強制労働」によって全国の工場や鉱山で朝鮮人が働かされたが、北九州の炭鉱地区では15万人とされる朝鮮人が働き、特に危険の多い切羽などの作業に従事させられた。

犠牲者数については、数千人と言われているが、特に敗戦直前の記録は焼却や散逸などによりほとんど残っていないため、全体としては検証されないままである。

各地には炭鉱事故等による慰霊碑等があるが、「**田川地区炭鉱殉難者慰霊の碑**」（田川市石炭公園）の碑文には太平洋戦争が「惨禍と犠牲」をもたらしたとするが、国策・戦争・企業への批判はない。「戦争中には徴用や各国捕虜等老若男女を問わずに石炭増産に狂奔」したとし、石炭採掘での2万人といわれる殉職者の冥福を祈り、感謝を捧げ、「未永く筑豊炭田の歴史を伝えん」としている。連行や虐待、強制労働や労働災害についての国家と企業の責任については記されず、「狂奔」と表現され、そのうえで犠牲者への「感謝」が捧げられている。

韓国人徴用犠牲者慰霊碑

その「殉難者慰霊の碑」の近くに在日韓国民団田川支部と韓国人徴用犠牲者慰霊碑建立委員会によって1988年に建てられた「**韓国人徴用犠牲者慰霊碑**」がある。



韓国人徴用犠牲者慰霊碑（田川市）

碑文には、「日本が人道に反する政策をおこなって戦争へと駆り出し、強制連行し強制労働をさせたこと、労役に苦しみ故郷の山河をみることなく逝った人々には痛恨の思いがあることなどが記され、これらの凄惨な事実を埋めることなく慰霊し、再びくりかえさないための戒めの標」として碑を立てたと刻まれている。

飯塚市 国際交流広場 無窮花（むくげ）堂

飯塚市は麻生元首相のおひざ元であるが、麻生財閥

が明治時代に始めた石炭採掘業を源流として巨万の財を成したことは有名である。しかし、麻生系炭鉱には1万人を超すとみられる朝鮮人が連行されたにもかかわらず、その社史には朝鮮人連行に関する記載はない。その飯塚市の市営飯塚霊園内に「無窮花堂」がある。

この施設は「在日筑豊コリア強制連行犠牲者納骨式追悼碑建立実行委員会」によって、2000年に完成した。同委員会は現在も放置されたままの遺骨を収集・追悼をめざし、飯塚市に対し支援と広報などでの協力を要請し、飯塚市は墓地内の市有地を提供し国際交流広場として整備することとなった。同委員会は、遺骨を収納できる追悼堂の建設をすすめ、その後、周囲に強制連行、強制労働の史実を記す壁を製作する活動がすすめられ、2002年に歴史回廊が完成した。

同委員会は2004年に「無窮花堂友好親善の会」となり、「朝鮮人強制動員真相究明筑豊委員会」が結成され、飯塚市をはじめ筑豊の自治体に埋火葬関係史料の情報公開を請求し、2006年までに1500人を超える連行期の朝鮮人死亡者名を確認した。

「無窮花堂」の追悼碑は炭鉱の強制労働による犠牲者の追悼文の末尾に「21世紀を迎えるにあたり、歴史的事実をあらためて認識し、不幸な過ちを2度と繰り返さない決意を込めて、この追悼堂と国際交流広場を日本とコリア両民族はもとより、すべての人類が恒久平和を希求する発信地として意義あらしめ、世代を越えて守っていくことを願ってやみません。」と結んでいる。



国際交流広場（飯塚市営霊園内）
「無窮花堂」（強制連行犠牲者納骨堂）

*本文は「戦時強制労働の調査・筑豊の炭鉱史跡・朝鮮人関係碑」（人権平和・浜松）から引用させていただきました。

東京同宗連「タイ・カンチャナブリ研修」

司祭 大森明彦（浅草聖ヨハネ教会）

英連邦戦没捕虜追悼礼拝は1995年敗戦後50年を機に永瀬隆さん、雨宮剛さん、斎藤和明さんが発起人になり毎年8月第1土曜日11:00に保土ヶ谷の英連邦戦死者墓地で行われる。2015年8月1日のこの礼拝に東京同宗連から4人が参加した。戦争終結後帰国できるはずだった1800名の戦没捕虜に思いを寄せ、戦争の罪深さと私たち日本人として生まれた者の責任を改めて考えさせられた。泰緬鉄道の建設に従事し、完成後日本に送られ、命を落とした捕虜もここで眠りに就いている。ソ連に抑留された日本軍捕虜の死者が1割弱だったのに対して、日本に拘束された連合軍捕虜の犠牲者は3割に及ぶ事実は日本人の行為がいかに過酷で野蛮な恐怖に満ちたものであったかを語っている。

その後タイ・カンチャナブリ研修が提案され、11月30日から12月3日の4日間の研修が立案された。事前学習の余裕もなく、共通図書として『平和と和解への道のり』—「英連邦戦没捕虜追悼礼拝」20年の歩み—（「英連邦戦没捕虜追悼礼拝」実行委員会編、2015）を選んだ。私たちは平和と和解への道のりとして今回の研修を位置づけた。

短い日程の中で、タムクラセー駅からアルヒル栈道橋を経てクワイ河鉄橋を渡りカンチャナブリ駅まで旧



カンナチャブリ英連邦戦死者墓地

泰緬鉄道に乗ることができた。駅付近にカンチャナブリ英連邦戦死者墓地があり、約7000名の捕虜たちが眠っている。モニュメントを前に私は献花をさせていただいた。跪き黙祷する中で、アーネスト・ゴードン

が『死の谷を過ぎて』に描いた非業の死を遂げた方々のことが思い浮かぶ。ここに眠る一人ひとりに謝罪し、和解と平和を祈った。墓地に隣接する泰緬鉄道博物館



モニュメントを前に献花

では研究者としても知られるロッド・ビーティー館長にお会いすることを楽しみにしていたが、オーストラリアに帰国されていた。

私たちはチョンカイ英連邦戦死者墓地も回り、そこでも献花と黙祷をささげた。ここはゴードンが長く収容されていた場所。極限状態の中で自分さえよければいいというジャングルの掟が蔓延する中、倒れた友を介抱する神を信じる捕虜がいた。友のために命を捨てる捕虜がいた。神を信じ、祈ることでジャングルの掟を克服し、やがて日曜日には2000人が集う森の教会が生まれた処だ。ここでカンチャナブリ墓地でお会いできなかった墓地マネージャーのマイケル・ニューバット氏が墓地職員と共に私たちに追いつき、挨拶を交わすことができた。英連邦戦没捕虜と関わりを持ち10年になる。夢と思っていたタイ研修で東京同宗連の仲間と共に謝罪と和解と平和を願う祈りをささげられたことは大きな一歩だ。私たち一人ひとりが平和と和解の道具として用いられますように。

日の丸・君が代」強制の即時中止を求め、強制に立ち向かう人、苦しむ人のために祈る

祈りの会

～第16回・信教の自由を求めて、キリスト者のつながりを～

主の平和 拒否したがために処分を受けたすべての教育関係者、特にキリスト者の教員、また「日の丸・君が代」の強制によって苦しんでいるすべての人々を覚え、「日の丸・君が代」の強制がなくなるまで、イエス・キリストの愛に基づく「正義と平和」を求め、ともに祈り続けたいと思います。祈りは力です。一人でも多くの方がこの祈りの会に加わってくださいますよう、ご参加をお待ちしています。

日時：2016年2月20日(土) 14:00～16:30

場所：浅草聖ヨハネ教会(都営地下鉄 蔵前駅5分)

14:00～ 祈りとメッセージ

星出卓也さん(日本長老教会・西武柳沢キリスト教会牧師)

15:00～ 懇談会

岸田静枝さん「累積処分取消訴訟」控訴審について、他

主催：「日の丸・君が代」強制に反対し、信教の自由を求める超教派キリスト者の会

共催：東京教区人権委員会

福島原発事故から5年 映画上映会

「日本と原発」

弁護士 河合弘之 初監督作品

3月12日(土) 14:00～16:30 映画上映

16:30 河合弘之弁護士のお話し

会場：阿佐ヶ谷聖ペテロ教会

杉並区 阿佐谷北 2-16-11 (3338) 4145

参加費 500円

日本聖公会東京教区 信仰と生活委員会・人権委員会

正義と平和協議会 共催

問い合わせ先 東京教区正義と平和協議会議長

(井口司祭:090-1265-5901)

守大助さんに手紙を

仙台北陵クリニックえん罪事件で、再審請求を戦っている守大助さんにひとこと励ましのメッセージを送ってください。

[宛先] 〒264-8585

千葉県千葉市若葉区貝塚町192

呼びたくても
叫びたくても
ならず
獄舎でノートに
母と書きたり
無実の大助

守大助さんの塙の中の詩

